

姫路市文化国際交流財団に 芸術監督と音楽プロデューサーが就任

姫路市文化国際交流財団に、平成30年4月から芸術監督と音楽プロデューサーが新たに就任しました。芸術監督は、作曲家で国際的に評価の高い池辺晋一郎さん。音楽プロデューサーは、N響ステージマネージャーなどを務めた多戸章人さんです。

財団30年の歴史で初めて導入する芸術監督、音楽プロデューサーの目的は、その見識、経験、人脈を財団の実施する文化振興事業に活かすとともに、財団事業の企画制作や運営などの機能強化を図ることにあります。芸術監督の池辺さんには、財団が実施する文化振興事業の総合的な監修を担ってもらい、音楽プロデューサーの多戸さんには、芸術監督と連携して、財団が実施する文化振興事業の企画制作、運営のリーダーとして活動してもらいます。

今回は、2人のプロフィールを簡単にご紹介します。



提供：(株)東京コンサーツ

芸術監督 いけべ しんいちろう 池辺 晋一郎

交響曲、オペラ、邦楽、映画音楽など幅広いジャンルで活躍。全国各地の文化団体企画運営委員、顧問、評議員、音楽コンクール選考委員などを務める。姫路では、姫路市制100周年を記念して委嘱した「交響詩ひめじ」の作曲、「交響詩ひめじ」合唱コンクールおよび「パルナソス音楽コンクール」の審査委員長を務める。平成23年に紫綬褒章を受章、同26年に姫路市芸術文化大賞を受賞。

芸術監督をお引き受けして

姫路市市制施行100年の記念のための「交響詩ひめじ」を作曲したのは1989年。以来、この曲を用いた合唱コンクールその他で、姫路市と深い関わりを持ってきました。世界遺産姫路城のみならず書写山圓教寺、そして豊かな海と山々……50数万という多くの人が集うのも当然の、このまちのすばらしさを実感します。オープンする芸術の殿堂が、このすばらしさに真にふさわしいものとして育っていくため、姫路市の芸術文化の振興に力を尽くしたいと考えています。



音楽プロデューサー たど あきひと 多戸 章人

武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科トランペット専攻卒業後、東京都交響楽団、NHK交響楽団のステージマネージャーを務める。現在は加東市東条文化会館コスミックホールチーフプロデューサーのかたわら、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団の日本ツアーステージマネージャーやアマチュア吹奏楽団などのアドバイザーも務める。

音楽プロデューサー就任に際して

姫路市文化国際交流財団のプロデューサーとして、「音楽のまち・ひめじ」プロジェクトの推進に大きく貢献したいと考えております。普及活動としては、親しみやすい鑑賞型事業の企画などを通して音楽の楽しさを伝え、さらにホールだけに限らずまちのあちこちでも音楽が楽しめるよう、音楽文化の底上げを目指したい。また、子どもたちへさまざまな形で働きかけて、次世代の育成にも力を入れていきたいと考えています。

表紙解説

姫路市立美術館

大野麥風『大日本魚類画集』《イセエビ》昭和12年(1937)
特別企画展「連作の小宇宙」出品作品

会期：6月24日(日)まで

大野麥風(明治21年～昭和55年)は魚類を得意とした画家です。もともとは洋画家でしたが、後に日本画に転じました。その代表作であり、集大成といえるのが『大日本魚類画集』です。画集といってまとまって本になっているのではなく、1枚1枚頒布さ

れたものです。魚類の木版画に、生物学的解説や料理法などの文章がつけられていました。1輯12枚で第六輯まで発行されましたが、最後のほうは太平洋戦争のさなかであったため、発行部数はさほど多くなかったと思われます。

もちろん中心となるのは解説よりも木版画です。浮世絵のように絵師、彫師、刷師による分業で制作されましたが、浮世絵と大きく異なるのが版を刷る回数です。通常の浮世絵を大きく上回る200回もの版を重ねて刷っており、版元の西宮書院でも200度刷りであることを大きく宣伝していました。

《イセエビ》は第一輯に含まれる作品です。捕獲されたイセエビではなく、イセエビの生態が描かれている作品です。